

# 投稿規定

## 1. 本誌について

本誌は、一般社団法人 多専会 専門リハビリテーション研究会の機関誌として、リハビリテーション医学およびその関連領域の進歩に寄与する学術論文を主体として掲載する。掲載する論文は、他誌に掲載されていないもの、もしくは掲載予定のないものに限る。

## 2. 利益相反 (Conflict of Interest; COI)

記事の種類にかかわらず論文内容に利益相反 (COI) の可能性がある事項 (コンサルタント料, 株式所有, 寄付金, 特許など) について, その有無を投稿時に報告すること。

## 3. 著作権

本誌掲載後の論文の著作権は, 専門リハビリテーション研究会に帰属し, 掲載後は本会の承諾なしに他誌に掲載することを禁じる。なお論文は, 本誌掲載の後, オンライン公開される。

## 4. 研究倫理とプライバシー保護

投稿論文は以下の倫理に関する規定を遵守するものとする。

- 1) 臨床研究は人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (文部科学省・厚生労働省 H 26. 12. 22 制定, H 29. 2. 28 一部改正), 動物実験は医学生物学領域の動物実験に関する国際原則 (H24. 12) に従ったものとする。
- 2) ヒトを対象とした研究にあたっては, ヘルシンキ宣言に基づくこと。その際, 被験者および対象者に対するインフォームドコンセントを行い書面にて同意を得ていること。加えて, 所属期間の倫理委員会ないしはそれに準ずる機関の承認を得ることが望ましい。
- 3) 症例報告など, 患者情報の記載が必要となる論文における個人情報の保護に関しては, 日本外科学会のプライバシー保護ガイドライン「症例報告を含む医学論文及び学会研究発表における患者プライバシー保護に関する指針」に準じ, 患者が特定されないよう留意すること。
- 4) 患者データを使用する場合には, 患者及びその家族より同意を得た上で, 投稿承諾確認書 (書式は任意) に署名を得ること。編集部の判断により, 照会を求める場合があるため, 投稿者自身が管理しておくこと。

## 5. 著者資格

本誌へ投稿する論文の筆頭著者は, 専門リハビリテーション研究会の会員に限る。共著者は会員・非会員を問わない。ただし, 依頼原稿についてはこの限りではない。

## 6. 投稿区分・記事の種類

投稿論文の区分は下記の基準によるものとする。

- 1) 原著: 科学的な手法で, 明確な結論が示されたもの。その内容においては信頼性および有用性, 独創性があると編集委員会で判断されたもの。
- 2) 報告: 科学的な手法で明確な結論が示された研究の報告。
- 3) 総説: 特定のテーマに基づき, 概念や状態, 状況などをまとめたもの。
- 4) 症例報告: 特殊な問題を持つ症例の臨床経験や新しい試みなどについての報告 (治療の経過, 結果及び考察を中心にまとめる)。1 症例もしくは数例の報告でもよい。
- 5) 現場からのレポート: 職場における新たな試みや工夫についての報告など。
- 6) トピックス: 医療・保健・福祉の全般にわたり会員に知らせたい情報や体験など。

なお, 投稿原稿が上記のどの区分に該当するかについては, 査読を通して編集部で決定する。これらに加え, 依頼原稿として, 学術大会の特別講演ならびに教育講演の原稿, 大会報告, 文献抄読, 編集部による記事等を掲載する。

## 7. 執筆要項

- 1) 論文は和文または英文とする。
- 2) 和文論文は A4 判の指定書式 (余白 25 mm, 30 文字×30 行, 11 ポイント明朝体) を用い, 横書きで記載する。英文論文は A4 判の用紙を用い, 行間はダブルスペースにて記載する。全ページに行番号 (各ページの先頭を 1 行目とする) を挿入すること。本文は Microsoft Word を使用して作成し, 投稿時には PDF ファイルに変換して投稿すること。図表は 1 個を 400 字として換算する。原著・報告・総説は, 要旨, 文献, 図表をあわせて 10,000 字 (刷り上がり 5 頁)。症例報告は 8,000 字 (刷り上がり 4 頁)。現場からのレポートは 6,000 字 (刷り上がり 3 頁)。トピックスは 4,000 字 (刷り上がり 2 頁)。文献抄読は 800 字 (刷り上がり 1/2 頁) 以内で執筆する。なお, 査読後の修正原稿についてはこの限りではなく, 編集部の指示に従うこと。
- 3) 原著・報告・総説論文はその区分, 和文・英文を問わず, 表題, 著者, 要旨およびキーワード, 本文, 文献, 図・表および説明文より構成されるものとする (以下①-④参照)。

①原稿には表紙をつけ, その表紙に和文表題, 英文表題, 20 字以内のランニングタイトル (簡略表題。表題を短くしたもので, 表題よりもさらに主題に絞り込んだもの。表題が 20 字以内であれば同じでもよい), 和文著者名, 英文著者名 (筆頭著者および共著者全員), 和文所属名, 英文所属名, 所属住所 (郵便番号も明記) と電

話番号, 連絡先住所 (所属と同じ場合は不要), メールアドレス, 職種 (PT・OT・ST など) を記載する。

- ②本文には, 要旨 (和文の場合は 400 字以内, 英文の場合は 300 語以内), 和文と英文キーワード (3 語), 本文, 引用文献の順に記載する。要旨については, 目的 *Objectives*, 方法 *Methods*, 結果 *Results*, 結論 *Conclusions* で項目立てをして作成する (「目的:」のように)。
  - ③図・表は, 本文での表出順に, それぞれ通し番号を付ける。図表は本文と別ファイルとし, 図は Power Point ファイル, 表は Excel ファイルで添付する。なお, 和文・英文を問わず, 図には原則として説明文をつける。図・表の挿入位置は, 括弧付きで朱書きする (手書き不可)。写真は, 200 万画素以上で白黒とする。
  - ④和文原著の場合には, 400 語程度の英文要旨を添付する。英文は必ず医学英語論文に精通した Native check を受け, 証明書を添付する。
- 4) 症例報告, 現場からのレポート, トピックス, は和文・英文を問わず, 表題, 著者, 本文, 文献, 図・表および説明文より構成されるものとする (以下①, ②参照)。
- ①原稿には表紙をつけ, その表紙に和文表題, 英文表題, 和文著者名, 英文著者名 (筆頭著者および共著者全員), 和文所属名, 英文所属名, 所属住所 (郵便番号も明記) と電話番号, 連絡先住所 (所属と同じ場合は不要), メールアドレス, 職種 (PT・OT・ST など) を記載する。
  - ②図・表は, 本文での表出順に, それぞれ通し番号を付ける。図表は本文と別ファイルとし, 図は Power Point ファイル, 表は Excel ファイルで添付する。なお, 和文・英文を問わず, 図には原則として説明文をつける。図・表の挿入位置は, 括弧付きで朱書きする (手書き不可)。写真は, 200 万画素以上で白黒とする。
- 5) 学術大会の特別講演ならびに教育講演の原稿, 大会報告, 文献抄読, 編集部による記事等に関しては, 別に編集部より指示する。
- 6) フォントは, MS 明朝体, 標準, 11 ポイントを原則とする。英数字は「日本語と同じフォント」とし, 数字は半角とする。
- 7) 見出し番号は, 「1., 2. …」, 「1), 2) …」, 「(1), (2) …」, 「①, ②…」の順で使用する。
- 8) 本文中の句読点 (カンマ, ピリオド, コロン) は, 和文では, 全角で「, 」 「. 」 「:」を使用する。英文では半角で「, 」 「. 」 「:」を使用する。
- 9) 原稿は算用数字・ひらがな・口語体・現代仮名遣い・常用漢字を用い, 学術用語は「日本医学会医学用語辞典 (日本医学会)」ないし「リハビリテーション医学用語集 (日本リハビリテーション医学会)」に可能な限り従うものとする。
- 10) 地名, 人物名等の固有名詞は原語で記し, 必要に応じて訳語を添える。人物名は原則として姓のみ

の表記とするが, 特に名を記す必要がある場合は, 本文中の最初に登場する箇所で, その名の頭文字を明記し, 以下は姓のみの表記とする。

- 11) 数量は MKS (CGS) 単位とし, mm, cm, m, ml, l, g, kg などを用いる。
  - 12) 特定の機器・薬品名を本文中に記載するときには以下の規定に従うものとする。
    - ①機器名の記載にあたっては一般名 (会社名, 商品名) と表記する。  
<表記例>MRI (Siemens 社製, Magnetom)
    - ②薬品名の記載は, 一般名 (商品名) と表記する。  
<表記例>塩酸エペリゾン (ミオナール)
  - 13) 文献は本文での引用順に記載し, 通し番号をつける。本文中および要旨文中の引用箇所には文献番号 1), 1, 5, 7) あるいは 1~6) のように記載し, 上付き数字にして記す。文献の省略は原則として Index Medicus に従う。著者名が 4 名以上の場合, 3 名連記の上, ○○他, あるいは○○○, et al. とする。
    - ①雑誌の場合 著者名: 題名. 雑誌名. 西暦年号 ; 巻: 引用ページ. の順に記載する。  
<表記例>
      - 1) 陶山哲夫, 高倉保幸, 赤坂清和, 他: 脊髄損傷者の社会生活状況—10 年以上の経過例—。日本パラプレジア医学会雑誌. 2001 ; 14 : 196-197.
      - 2) Akasaka K, Onishi H, Momose K, et al.: EMG Power Spectrum and Integrated EMG of Ankle Planterflexors during Stepwise and Ramp Contractions. Tohoku J Exp Med. 1997; 182: 207-216.
    - ②単行本の場合 著者名: 書名 (版数). 監修ないし編集者名, 発行所名, 発行地, 西暦年号, 引用ページ. の順に記載する。  
<表記例>
      - 1) 浅山 晃: 腰部脊柱管狭窄症, 臨床リハ別冊実践リハ処方. 米本恭三他 (編), 医歯薬出版, 東京, 1996, pp188-192.
8. 投稿期間
- 原則として各年度の学術大会終了後から, 10 月末日までとする。なお編集長が別途期日を指定した場合には, この限りではない。
9. 投稿原稿についてのお願い
- 投稿原稿の執筆・作成にあたっては, 本会ホームページより, 投稿原稿【表紙】及び投稿原稿フォーマットをダウンロードし, 規定の書式を使用すること (<http://smrk.sakura.ne.jp/kaishikankei.html>)。投稿前に 7. 執筆要項を再度確認し, 投稿区分に応じて必要となる記載事項を全て記載するとともに, 必要なファイルを添付した上で投稿すること。なお, 査読が完了後の提出ファイルに関しては, 本文は Microsoft Word 形式, 図は Microsoft PowerPoint

形式、表はMicrosoft Excel形式で提出すること。

執筆時には論文としての体裁を整えるため、執筆要項に加えて、以下の点に気をつけて執筆すること。

- 1) 本文中では主語と述語を明記し、文章の途中で終わらずに「～した。」、「～である。」などの表現で終わる。
- 2) 略語を使用する場合は、初出時に日本語は正式な表現、欧文はフルスペルまたは和訳を括弧内に併記する。なお、MRIなど、医学用語として一般化している用語は、初出時から略語の使用を認める。
- 3) 肉眼所見に病理学的用語（例：変性、萎縮など）を使用することや、表面からの観察に三次元的表現（例：低形成など）を使用することは避けること。用語は正確に使用し、可能な限り客観的指標を使用するよう心掛けること。
- 4) 数値データを本文、図表等に記載する場合には、平均値、中央値、標準偏差など、可能な限り正確に読み手に伝わるよう適切なデータ表示に配慮すること。
- 5) 文献を引用する場合には、原則として原型を保持して引用し、原著者の意図に反した引用とならないよう配慮する。改変使用の場合は、その旨を明記すること。

※他者の著作権または著作権に帰属する資料（文章、図表、写真など）を使用する場合には、事前に著者自身が著作権者にその許可を得て、原典を明記してください。

## 10. 査読・編集・採否

投稿された原稿は、本誌編集部員および外部査読者により査読を行う。査読の結果、編集方針に従い原稿の加筆・削除及び書き直しを指示する場合がある。

投稿論文の採否は、査読を経て、最終的に編集委員会において決定する。採否の結果は投稿者に通知する。査読の結果、編集方針に従って原稿の一部変更を依頼することがある。また、編集委員会の責任において字句の訂正をすることがある。

## 11. 再投稿・修正原稿

修正を求められた原稿の再投稿に際しては、指摘されたコメントに応じて修正した原稿とともに、必

ず編集部および各査読者宛の返答書（別 Word ファイル）を作成し添付すること。この査読返答書には、査読時に指摘された修正点・問題点・疑問点に対してどのように対処したのか、返答を記載する。その際、該当のページ数・行数などを明示し、かつ修正原稿の該当部分を赤字にするなど査読者が判断できるように配慮する。基本的に各コメントに対して逐一返答をするか、これらに対する反論を記載し、指摘された事項全てに対して返答すること。

## 12. 著者校正

著者校正は初校のみとする。著者校正の際には、誤字・脱字などに対する字句の修正、及び編集部より指示された修正以外は加筆・修正を認めない。

## 13. 掲載料

掲載料は規定の範囲内までは無料とするが、それを超えるものは実費負担とする。カラー掲載希望の場合も実費負担とする。ただし、特別に編集委員会で認められたものについてはこの限りではない。

## 14. 別刷り

別刷りを希望する場合は著者の実費負担とする。査読完了後の校正時に、直接制作・出版社に対して依頼すること。

## 15. 原稿の投稿先

投稿原稿は、投稿区分に応じてそれぞれ以下の担当者まで、電子メールにて送付するものとする。

### 1) 学術大会発表演題の投稿

喜多俊介 (kita@toutoreha.ac.jp)  
東都リハビリテーション学院 理学療法学科

### 2) 上記以外の投稿

須永 康代 (sunaga-yasuyo@spu.ac.jp)  
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科  
(平成 25 年 12 月一部改訂)  
(平成 31 年 3 月全部改訂)  
(令和 2 年 3 月一部改訂)  
(令和 5 年 9 月一部改訂)